

国際日本研究センター 海外大学・機関 調査表

訪問先	北京外国語大学 北京日本学研究中心
調査日時	平成 22 年 3 月 22 日、25 日
調査対象機関・学科・個人名	北京外国語大学 副学長 姜绪范副学長 北京外国語大学 北京日本学研究中心 主 任 徐一平教授 副主任 曹大峰教授 文学研究室主任 张龙妹教授 博士後期課程学生 张林さん
訪問目的	1. 北京日本学研究中心の研究・大学院教育について、直接聞き取り調査を行い、東京外国語大学国際日本研究センターが今後、母語・地域性をふまえた効果的な日本語教授法・教材の発信をするための意見交換を行う。 2. 日本語・日本語教育研究者と意見交換を行い、今後の連携のための打ち合わせを行う。 3. 中国に即した日本語教育の講演として、「中国語からみた日本語－自他・受身・複合動詞をめぐって」の講演を行う。講演のハンドアウトは別添のファイルのとおり。
調査方法	項目に従ったインタビュー、写真
調査結果	【機関の性格】 北京外国語大学の敷地内に設立された北京日本学研究中心は、中国における日本語・日本研究、日本との交流に携わる人材の養成を目的として、1979 年の大平正芳首相(当時)と華国鋒主席(当時)の合意に基づいて設立された「日本語研修センター(通称「大平学校」、1980 年設立)」の後を受け、国際交流基金および中国教育部双方の協議により 85 年に開設された。北京外国語大学の敷地内にあるが、中国全土からの日本語関係の大学院教育を担う共同利用機関としての性格を持っている。 国際交流基金は、同センターの運営に協力し、日本研究・日本語教育の専門家の派遣、大学院生等の日本への招聘を実施しているほか、運営経費支援、教材・研究用図書・機材の寄贈をしている。

	【日本にかかわるコース概要】 大学院のみの設置である。日本語学、日本語教育学、日本文学、日本文化、日本社会・経済の5専攻の大学院修士課程を設置（2007年9月入学者までは日本語学・日本語教育学、日本文学・日本文化、日本社会・日本経済の3コース制。） 修士を取得した者には、北京外国語大学博士課程所属の博士後期課程の学生として同センター指導教授の下で、または文部科学省の国費留学生として、日本国内各大学の博士課程にて、それぞれ研究を行なう道が開かれている。 本センターで養成された学生数は以下のとおり（2008年7月現在）。 1. 大学院修士課程 23期生まで 509名 （うち修士学位取得者 21期生まで 398名） 2. 国費留学博士課程 18期生まで 72名 3. 北京日本学研究中心博士課程 28名 （うち博士学位取得者 12名） また、国際交流基金はこれまでのべ526名の専門家を同センターに派遣している（2008年7月現在）。 【上記のコース・科目を履修した卒業生の進路について】 修士課程修了者は、企業に就職して、日本関係の業務に就く。 博士課程修了者は、中国の大学の教員となる。 【まとめ】 東京外国語大への要望としては、北京外国語大学と、東京外国語大学は、北京と東京と、中日両国の首都に位置する、非常に良く似た性格の大学であり、ぜひ交流協定を締結し、大学院生の共同指導、東アジア研究の連携を行いたい。
備考	【東京外国語大学との関係】 北京日本学研究中心では、本学中国語学科加藤晴子教授が副センター長を務めていたことがある。 【連絡先】 徐一平教授 【受け渡し資料】 ・東京外国語大学学長より北京外国語大学学長へ交流を希望する親書

調査担当者： 望月圭子

1. 左より二人目が曹大峰教授、左より三人目が徐一平教授、左より四人目が東京外国語大学副学長 富盛伸夫副学長、続いて東京外国語大学丹羽泉教授、望月圭子。



2. 北京外国語大学姜绪范副学長（右）へ東京外国語大学富盛伸夫副学長（左）より東京外国語大学亀山郁夫学長よりの交流を希望する親書の手渡し



3. 北京日本学研究中心の充実した日本語学・日本語教育・日本事情に関する図書館：夏休み等を利用して、中国全土から日本関係の学生・研究者が閲覧に来るという。



国際日本研究センター 海外大学・機関 出張報告書

訪問先	北京大学外国語学院、中国語学部、計算言語学研究所
調査日時	平成 22 年 3 月 23 日、25 日、26 日
調査対象機関・学科・個人名	北京大学副学長 李岩松副学長 1. 北京大学外国語学院 http://sfl.pku.edu.cn 学院長 程朝翔教授 副学院長 李政教授 副学院長 趙華敏教授 日本言語文化系主任・日本文化研究所所長 金 勲教授 日本言語文化系・日本文化研究所副所長 彭 広陸教授 日本言語文化系 李 奇楠副教授 日本言語文化系 潘 鈞副教授 2. 北京大学中国語学部 陆俭明教授、马真教授、 副主任 沈阳教授、副主任陈跃红教授、副主任蒋朗朗教授 3. 計算言語学研究所 詹卫东副教授
訪問目的	1. 北京大学外国語学院における大学院教育の聞き取り調査 2. 国際日本語教育部門プロジェクト「日本語学習者の母語・地域性を踏まえた日本語教育研究－国内外の日本語教育研究機関との協働的研究－」の協働研究のための打ち合わせ、プロジェクトにおける日中対照研究のための北京大学中国学部、計算言語学研究所の研究者との交流 3. 北京大学日本語学科における講演
調査方法	項目に従ったインタビュー、写真

	1. 北京大学外国語学院の各組織の長との会談： 現在、北京大学は、大学院教育の充実を目指している。その一つの試みとして、海外の大学と博士号のダブルディグリー制度の連携・開発を行っている。すでに、外国語学院においても、フランスの大学とダブルディグリー制度の連携を行っている。他の学院であるが、国際関係学院では、早稲田大学とダブルディグリー制度の連携を行っている。北京大学外国語学院は、東京外国語大学と非常に良く似た教育研究を行っており、英語学科、英語教育学科、ロシア語学科、スペイン・ポルトガル語学科、ドイツ語学科、フランス語学科、アラビア語学科、日本語学科、東方語学科（ペルシャ語、朝鮮語、タガログ語、モンゴル語、ビルマ語、タイ語、ヒンディー語、インドネシア語、マレーシア語、ベトナム語、ウルドゥー語、ヘブライ語、サンスクリット語）の言語文化研究を行っている。 今後、東京外国語大学と、ダブルディグリーの連携を強く希望している。 2. 北京大学外国語学院日本語文学科の博士後期課程学生指導教授の資格を持つ彭広陸教授、趙華敏教授からは、以下のような説明・要望があった。北京大学日本語文関係の博士後期課程は、4年制で、そのうち一年を日本の大学の指導教員のもとで博士論文の準備を進めることを奨励しているので、東京外国語大学へも博士後期課程の学生を一年間派遣したい。現在は、日本大学、法政大学、関西大学等の私立大学と交流協定があり、日本の大学側が奨学金と宿舎を提供しているので、学生及び教員の研修のために派遣しているが、必ずしも日本語学・日本語教育の指導教員のもとで研修できるとは限らない、というジレンマがある。北京大学の日本語・日本語教育関係の博士課程は、中国全土から応募者があり、一人の博士指導資格をもつ教員が一人の学生しか受け入れできず、また、中国でも、日本語・日本語教育関係の博士課程があるのは、北京大学をはじめとして、北京外国語大学、上海外国語大学等、非常に限られた大学にしかないため、非常に狭き門である。 3. 北京大学中国語学部 の研究者との会談 北京大学中国語学部は、100名の教員組織からなる、世界の中国学・中国語学・中国語教育の中心である。日本からも多くの留学生が留学し、東京外国語大学中国語学科の三宅登之先生、加藤晴子先生も、中国語学部で研修していたことがある。 中国語学部の大学院生も、将来、日本人に中国語を教える教員になる場
--	--

合が多く、日中対照言語学、日中比較文学等に興味がある学生が多く、東京外国語大学に大学院レベルでの学生派遣ができれば、非常に有難い。

4. 計算言語学研究所の詹卫东副教授との会談

計算言語学研究所、中国学部・中国語文研究所を併任する若手精鋭研究者である詹卫东副教授と1時間にわたり研究プロジェクト上の会談を行った。

詹卫东副教授によれば、中国政府からの研究費は年々増えており、使いきれないほどの研究費を受給していて、研究環境は非常に良い。早稲田大学の砂岡和子教授との連携で、日本の中国語学習者の **e-learning** のためのオンライン中国語補語辞典を構築し、以下のサイトで自由に使ってもらえるように公開している。

<http://ccl.pku.edu.cn/vc/>

また、日中対照研究に興味がある研究者は、併任する中国語言語学研究所が以下のサイトで、中国語大規模コーパスも公開しているので、ぜひ利用してほしい。

http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/index.jsp?dir=xiaodai

東京外国語大学でも、オンラインの日本語学習環境を提供して大変素晴らしい。ぜひ交流したいと思う。また、東京外国語大学 **GCOE** で開発しているオンライン日本語誤用辞典のアイディアは世界の学習者にとって大変役立つ。

オンライン日本語誤用辞典

http://cblle.tufs.ac.jp/lle/ja_wrong/

4. 北京大学日本語学科での講演「中国語母語話者における日本語学習上の誤用と効果的な教授法」:

北京大学の学生のみならず、北京の日本語関係の大学院生、教員も参加してくださった。講演のハンドアウトは添付ファイルの通り。

別添 pdf ファイル:「中国語母語話者における日本語学習上の誤用と効果的な教授法」

	 北京大学日本語文研究所の先生方、大学院生の皆さんと
備考	【東京外国語大学との関係】 趙華敏教授が 1981 年より 1984 年まで本学に国費留学生として研修していた。 【連絡先】 窓口になっていただく方 趙華敏教授 【受け渡し資料】 ・東京外国語大学学長より北京大学学長へ交流を希望する親書 ・北京大学外国語学院紹介パンフレット ・北京大学学部生用履修案内 ・北京大学研究院資料

調査担当者： 望月圭子

1. 北京大学迎賓の間にて

右より二人目 金勲教授、右より三人目趙華敏教授、右より四人目李政教授、
右より六人目（写真中央）程朝翔外国語学院長、
左端同行した東京外国語大学丹羽泉教授、左より二人目望月圭子、左より三人
目同行した東京外国語大学富盛伸夫副学長



2. 北京大学外国語学院の各関係者と会談



3. 北京大学李岩松副学長へ東京外国語大学副学長富盛伸夫副学長から東京外国語大学学長亀山郁夫学長よりの親書の手渡し



4. 計算言語学研究所の詹卫东副教授との会談



5. 計算言語学研究所の詹卫东副教授と研究所前で 左より二人目が詹卫东副教授

